【体験授業用教材】

J3M

本科０期１月度（Ａターム）１回目

Ｚ会東大進学教室【体験授業用教材（抜粋版）】

早慶大日本史

目　次

はじめに …… 2
１章　文化の始まり …… 4
２章　小国の分立 …… 16
３章　ヤマト政権 …… 30
４章　推古朝と改新政治 …… 46
５章　律令制度 …… 60
６章　律令国家の展開 …… 76
７章　平安時代初期の政治 …… 94
８章　摂関政治と院政 …… 108
９章　土地政策の変化 …… 120
付録　日本史の基礎知識 …… 134

はじめに

1．　Z会の教室　地歴の指導方針

受験地歴とは用語や年号を機械的に丸暗記すること，というイメージを持っている人はいませんか。確かに受験地歴では多くの知識が必要ですが，それ以上に，歴史的・地理的な事件や事象が生じた理由・背景・展開・メカニズム・プロセスを大きな流れの中で理解することが重要です。Z会の地歴講座では，教科書の知識を平坦に解説していくのではなく，各大学で問われやすいテーマ・視点という観点から歴史・地理の本質を捉える講義を行います。また，単純な知識のつめこみではなく，基礎知識を運用する思考力，またその運用のプロセスを答案に表す表現力の養成を重視した指導を行います。

地歴を学習するということは，現代の日本・世界や，そこで生じる社会現象を理解・考察していくことにつながります。当講座での学習が志望校合格の一助になるとともに，結果として「歴史・地理を通じて考える」という姿勢を養う手がかりになれば幸いです。

2．授業について

予習

原則として予習は必須ではありません。しかし，その回で扱う内容が学校などでも未習の場合には，テキストの要点部分にあらかじめ目を通し，さらに学校の教科書で該当するページを必ず読んでおきましょう。

授業内

授業では，テキストの内容について解説を加え，１回ごとにその内容を終わらせていきます。授業で扱った内容は，自前のノートやルーズリーフ，テキストの余白などでしっかりまとめておきましょう。

復習

復習の際には，「確認問題」が有効です。何度も取り組んで頭に入れていきましょう。さらに「問題」にも取り組んでください。また，市販の問題集を解くなどして，応用力を磨いていきましょう。

３．　テキストの構成

※本科０期テキスト全体の構成です。

●要点

その回で扱う内容をまとめたものです。

●問題

その回に扱った内容に関連する問題です。必ずしも授業内で扱うとは限りませんので,「解答」とあわせて自習や復習に活用してください。

●問題のレベルについて

Ｚ会の教室のテキストでは，問題のレベルを★の個数によって３段階で表します。

★：基礎　　★★：標準　　★★★：応用（発展）

※映像授業をご受講の皆様

・映像で問題演習の指示が出たら，映像を停止して問題に取り組みましょう。

・授業をご受講いただく前に，各講座のオリエンテーション映像をご覧ください。

問題

★★

【1】 次の文章中の〔　　〕に適当な語句を記入し，あとの問いに答えなさい。

日本に旧石器時代が存在していたことが知られるのは，(a)1949年群馬県の〔　1　〕遺跡の発掘により，〔　2　〕が発見されてからである。

今から約1万年前，地質学でいう〔　3　〕になると，氷河時代が終わり，海面が上昇し，日本列島は大陸から切り離された島となる。植生も現在とほぼ同様の植物相となり，本州部分は東日本が落葉広葉樹，西日本が〔　4　〕の世界となる。豊かな植物性食料を煮炊きするために土器が使用され，その独特の模様から縄文時代と名付けられている。豊かな食生活の跡は，旧海岸線近くで発見される(b)貝塚の内容で知ることができる。

この時代，(c)人々はあらゆる自然物や自然現象に霊魂が存在すると考え，それを畏怖し，崇拝した。女性を示す土偶や男性を示す石棒がみられ，死者は手足を折り曲げて埋葬する〔　5　〕が広く行われている。

縄文文化は〔　6　〕時代の文化であるが，狩猟・漁撈・木の実などの採集を中心とした日本独自のもので，数千年にわたって日本の各地に展開した。しかし，最近の発掘調査では，縄文時代に植物の栽培が開始されていた形跡が認められるなど，多くの発見が続き，時代の見直しが進んでいる。

問1　(下線部(a)について)〔　2　〕が発見された赤土層をなんというか。

問2　(下線部(b)について) 日本で最初に貝塚を発見した人物(ア)と，その貝塚名(イ)を答えよ。

問3　(下線部(c)について) このことを，なんというか。

(長崎大)

★★

【2】 次の文を読んで，問に答えなさい。

日本列島に人類が登場し，考古学的な証拠として明確に生活の痕跡を残すのは①後期旧石器時代からである。この時代，気候は一般に寒冷で，列島を覆う植生は主に亜寒帯の落葉性針葉樹林を構成した。②旧石器時代人は，狩猟採集活動を通じて自然の恵みを享受し，生活のさまざまな側面において自然環境に適応した生活を送っていた。ところが一万年前頃から，気候環境が世界的に変動し，［ A ］に向けて変化すると，海面が上昇し，陸地の一部は海面下に没した。縄文人は低地に拡大した海域環境に積極的に働きかけるなど，生活面で③新たな適応を開始した。縄文前期，中期には関東・中部・東北地方において，［ B ］集落とよばれる，広場を配した集住的な居住形態が一般化する。縄文後・晩期を迎えると，人々は海辺での捕採活動に加えて，この時代に支配的であった落葉性広葉樹林や照葉樹林などの森林帯を引き続いて開発したが，植物性食料が食生活を支える④重要な食料資源になった。この時期は，生業の技術面において革新がなされ，同時に配石遺構や土盛り遺構など，規模の大きい施設が現れ，⑤祭祀・儀礼上の遺物が増加するなど，⑥社会の仕組みに複雑さが増したことがうかがわれる。

1　下線①で，ヨーロッパでは発見されず，日本列島で顕著に見出される特徴は次のどれか。
ア　土器　　イ　局部磨製技術　　ウ　打製技術　　エ　トナカイ狩猟
オ　洞窟絵画

2　下線②で，日本の代表例は次のどれか。
ア　三内丸山人　　イ　吉胡人　　ウ　土井ヶ浜人　　エ　港川人　　オ　上黒岩人

3　下線③で，適応の結果として不適切なものは次のどれか。
ア　土器利用　　イ　弓矢猟の開始　　ウ　貝類の捕採　　エ　竪穴住居
オ　農耕牧畜の開始

4　下線④で，最も適切なものは次のどれか。
ア　木の実　　イ　ムギ　　ウ　トウモロコシ　　エ　キノコ　　オ　海草

5　下線⑤で，無関係な事項は次のどれか。
ア　土偶　　イ　動物形土製品　　ウ　石棒　　エ　銅鐸　　オ　土面

6　下線⑥で，妥当な解釈は次のどれか。
ア　家族単位で季節的移動性に富んだ小規模な血縁集団の社会。
イ　氏族組織が解体して，首長と官僚組織による中央集権的な政治機構をもつ社会。
ウ　親族組織の分節化に加えて，地縁的，結社的な結合が発達した部族社会。
エ　地方の部族集団をこえて政治的に統合され，頂点に首長をいただく社会。
オ　製陶，冶金技術などが専業的な技術集団によって担われた社会。

7　文中の空欄Aに当てはまる最も適切な語句はどれか。
ア　温暖化　　イ　寒冷化　　ウ　極北化　　エ　砂漠化　　オ　熱帯化

8　文中の空欄Bに当てはまる適切な語句はどれか。
ア　高地性　　イ　環濠　　ウ　環状　　エ　輪形　　オ　城砦

（早稲田大・一文）

★★

【3】 次の文章の空欄Ａ～Ｅに入るもっとも適当な語句・数字などを語句群のなかから一つ選び，その番号を記せ。

縄文時代は食用植物の採集や狩猟・漁労を中心に生活していたため，自給的な暮らしであったと思われがちである。しかし，彼らの道具の一部はかなり広い範囲にわたって交易されたことがわかっている。

たとえば，半透明で緑色をした（　Ａ　）は，日本列島で産地が一ヶ所しか知られておらず，その原産地を中心地にして500㎞以上の広い範囲にわたって交易されていた。（　Ａ　）は大珠などの装身具の原材料として珍重され，広い範囲に持ち運ばれていたのである。

石鏃などの原材料となる（　Ｂ　）は黒色でガラスのような石材であり，北海道の（　Ｃ　）や，長野県の（　Ｄ　）などの限られた地点からしか産出しない。そのため，（　Ａ　）と同じく，広範囲にわたり交易がおこなわれていたことがその分布を通じて確認される。最近では，蛍光Ｘ線分析によって（　Ｂ　）の産地同定が進められており，日本列島内にとどまらず，ロシアなどの大陸側を含めた東アジア的な交易についても検討されはじめている。

石材は腐らず，その一部は産地が明確であるために，交易の実態を把握しやすい。しかしそれ以外にも，多くの産物が交易されたと考えられている。たとえば，縄文時代の比較的海岸に近い集落の遺跡で多く見受けられる（　Ｅ　）は，内陸部の集落と交換する保存食品を交換するための食品加工の痕跡である，という意見がある。塩分やミネラル分が不足する内陸部の人々にとって，海岸部との交易でえられた保存食品は，生存していくために必要不可欠な栄養を含んでいたと思われる。当時の海岸部で製塩遺跡が出現しはじめると（　Ｅ　）が減少するといわれているが，それは，交易品が保存食品から塩そのものに変化したことを物語っている可能性があるのである。

①玉造　②水晶　③姫川　④ストーン・サークル　⑤白滝　⑥貯蔵穴
⑦大形竪穴住居　⑧蛇紋岩　⑨緑色凝灰岩　⑩ひすい　⑪腰岳　⑫貝塚
⑬和田峠　⑭硬質頁岩　⑮二上山　⑯姫島　⑰碧玉　⑱神津島　⑲黒曜石
⑳サヌカイト

（立命館大・経済）

体験授業をご受講いただく皆さんへ

体験授業をお申し込みいただきありがとうございます。
Ｚ会の教室の授業は、学力を効果的に上げていくためのカリキュラム・内容となっております。
次回以降もぜひ継続して受講することをおすすめします。

《体験授業後の流れ》

お申し込み方法

引き続き継続して受講される場合は、各教室窓口・お電話でお申し込みが可能です。
※体験授業終了直後に窓口で申し込んでお帰りになることもできます。
※認定が必要な講座をご希望の方はテストを受験していただく場合があります。
※予習が必要な講座は次回までの予習がありますので、余裕を持ってお申し込みください。
※本科授業は、**「クラス授業」「映像授業」「個別指導」**が選べます。「時間の都合がつかない」「授業内でわからない部分だけを学習したい」という方には**「映像授業」**を、「映像授業で学習した内容で難しかった部分をしっかりと理解したい」という方は、映像授業を受講した後で個別を指導を受けられる**「個別指導」**を、それぞれおすすめします。
※映像授業の体験も承ります。一部の講座では映像授業のご用意がありません。予めご了承ください。

通話料無料 **0120-2828-76** 月曜日～土曜日 12:00～20:00（休室日を除く）

各教室電話番号 月曜日～土曜日 14:00～21:00（休室日を除く）

御茶ノ水教室	03-5296-2828	池袋教室	03-5985-2828
渋谷教室	03-5774-2828	横浜教室	045-313-2828
新宿教室	03-5304-2828	葛西教室	03-5878-0844

お申し込み後の流れ

お申し込みから１週間以内に手続書類（入会書類、お支払いについて、会員証など）をお送りします。
※受講料のお支払い期日が次回授業よりも後の場合でも、次回授業へのご参加は可能です。
※体験授業後にご受講いただく場合、「Z会の教室」では「月度」単位で受講料を請求させていただいているため、体験授業分も受講料をご請求する場合があります。くわしくは教室スタッフまでお問い合わせください。

→ お申し込み後、テキストを各教室窓口にてお受け取りください。

※葛西教室にて高1・高2講座・受験講座、
Z会進学教室大学受験部立川教室にて高1・高2・受験生講座を開講しております。

講座選択に迷ったら…

学習相談は随時承っています。お電話でのご相談も可能です。
受講に際して不明点、不安な点がある方は、各教室の窓口、または上記番号までお気軽にお問い合わせください。

Ｚ会の教室の受講サポート　―万全のシステムで効果的な学習をサポートします―

1. 講師への質問

授業前後の時間や休み時間を利用して、担当講師に直接質問をすることができます。
疑問点をそのままにすることなく、その場で解消することができます。

2. 振替受講

本科のクラス授業で欠席する回の授業を、同一週・同一講座の他のクラスで振替受講することができます。
他教室への振替、映像授業（教室・自宅での受講）への振替も可能です。前日までに各教室窓口、お電話にてお申し出下さい。
※振替手続は一週前の月曜から可能です。

3. 進路・学習・入試相談

各教室の学習アドバイザーが皆さんのご相談を随時承っています。

4. 自習室

本科生の方は休室日を除いて、全教室の自習室をいつでもご利用いただけます。